

身體部位「顏 kao, yan」的語義分析

—以日文及中文為主—

李毓清

實踐大學語言中心 講師

摘要

當人們與他人交會時最先映入眼簾的身體部位就是「顏(kao, yan)」，而我們喜怒哀樂的感情也大都藉由「顏(kao, yan)」的表情來判讀，因此「顏(kao, yan)」是我們認識他人時扮演著重要得角色。

本研究以日語字典(6冊)，中文字典(6冊)，『分類語彙表一增補改訂版』，『重編國語辭典修訂版 1994』為主；將前兩項字典中「顏」的語義及後兩項類語詞典中「顏」的詞語為本論文研究的對象。研究方法為將中、日各字典中有關「顏」的語義及類語辭典中有關「顏」的語詞的分類、解釋、例句個別抽出然後再做比較分析。

有關「顏」的語義部分：中、日字典中相似的用法有〈表情・態度・容貌〉、〈名譽・面子〉2 個項目。個別用法則有〈頭部的前面〉、〈知名度〉、〈成員〉、〈代表〉、〈物體表面〉、〈接尾詞〉、〈五的數字隱語〉（此 7 項限日文字典使用）、〈額頭〉、〈色彩〉、〈姓氏〉、〈匾額〉、〈題字〉（此 5 項限中文字典使用）合計 12 項。

類語辭典中「顏」的詞語調查結果：中、日文類語辭典例句的數量皆約有 150 的例子，兩者間詞語的語義用法也大都集中在〈表情・態度・容貌〉的項目。中、日文類語辭典中皆有一個「顏」的詞語包含兩種以上的語義用法。但在「顏」的詞語分類項目上日文類語辭典的類別比中文類語辭典多；且兩者間的差異達 2.5 倍以上。此外，中、日文間皆有外形相同之「顏」的詞語如「顏色、紅顏、尊顏、天顏、龍顏」等，且彼此的語義用法有相似之處。

本研究針對中、日文中身體部位「顏」的語義做一調查分析，有關兩者間的差異性做探討對照；希冀此次研究結果能在中文及日文語義研究方面提供參考之價值。

關鍵詞：身體部位、顏、語義、顏的詞語、語義用法

受理日期：2014.08.28

通過日期：2014.10.24

Semantic Analysis of Body Parts Face(kao ,yan)

- A contrastive Study of Japanese and Chinese -

Yu-Chih Lee, Lecturer
Shih-Chien University

Abstract

This study is based on Japanese dictionary (book 6), Chinese Dictionary (book 6) , Japanese Word List by Semantic Principles Revised and Enlarged Edition and Renumbering Mandarin Dictionary Revision 1994" (1994 Ministry of Education, ROC All rights reserved). Among former two dictionaries and lexical dictionaries, the research subject is to study face(kao,yan) from the first two dictionaries and face(kao,yan) from the other two lexical dictionaries. As for the research method is to analysis face(kao, yan) in both Chinese and Japanese dictionaries by exploring the words of classification, definition and example sentence comparison.

Semantic of face(kao, yan) can be divided into two parts that are similarities and differences in both Chinese and Japanese dictionaries. Two similar semantic usages of face(kao, yan) are <expression • attitude • looks> and <reputation • face>. The individual usages are <in front of the head> <visibility>, <member> <representation>, <object surface>, <suffix>, <five figures argot> (Above 7 usages only use in Japanese dictionary), <forehead>, <color> <last name>, <plaque>, <inscription> (these 5 usages only use in Chinese dictionary) . There are total 12 usages in semantic of face(kao, yan).

As for the research finding through the example sentences in both Chinese and Japanese lexical dictionaries, there are about 150 example sentences showing that the semantic usage is mostly focus on <expression • attitude • looks>. Lexical of face(kao, yan) contains more than two semantic usages in Chinese and Japanese lexical dictionaries. However, in the face(kao, yan) words classification in Japanese lexical dictionary is 2.5 times in Chinese lexical dictionary. In addition, lexical of face(kao, yan)such as color, red face, zun yan, tian yan and long yan etc. are both portray the same description in Chinese and Japanese lexical dictionaries.

The purpose of the research is to analysis and compare the semantic meaning of face(kao, yan) in Chinese and Japanese. The result of this study hopefully can provide reference value in Chinese and Japanese semantic further research.

Keywords: body parts, face(kao ,yan),semantic, lexical of face(kao ,yan) , semantic usages

身体部位「顔」の意味分析—日本語と中国語を兼ねて

李毓清

実践大学言語センター 講師

要旨

本研究は日本語辞書（6冊）、中国語辞書（6冊）、『分類語彙表』（2004）、『重編國語辞典修訂版』（1994）を中心にして、前二者における「顔」の語義を、後二者における「顔による造語」¹の意味用法を研究対象とする。研究方法は各々の辞典に記されている「顔」の語義、「顔による造語」の意味用法に関する分類、解釈、用例数などの重なりとずれを抽出し別々に分析することによって考察したい。

「顔」の語義は、両言語の辞書に共に使われている「顔」の語義には＜表情・態度・容貌＞と＜名誉・面目＞2つの項目がある。それぞれ独自に使用されるものには＜頭部の前面＞、＜知名度＞、＜成員としての人＞、＜代表＞、＜物の表面＞、＜接尾語＞、＜「五」の数を言う符丁＞（この7つは日本語の辞書に限る）、＜額＞、＜色彩＞、＜姓＞、＜扁額＞、＜題字＞（この5つは中国語の辞書に限る）の計12項目がある。

類語辞典を調査した結果、用例数においては二者（中国語の類語辞典と日本語の類語辞典）には約150の類似点があり、意味用法においては二者主に＜表情・態度・容貌＞の項目に集中することがわかった。分類項目の数については日本語の辞典は中国語のものより多く、二者の間に2.5倍の差が見られる。なお、両者ともに1つの「顔による造語」には2つ以上の意味用法が使われる。

「顔による造語」の同形語において二者には共に使われていて（例えば、「顔色」、「紅顔」、「尊顔」、「天顔」、「竜顔」など）、お互いの意味用法が類似している。

本稿は中、日両言語における身体部位「顔」の意味用法を調査して、両者の差異性に関わることを明らかにし、研究結果は中・日両言語の意味分析に参考資料となり得ることが期待される。

キーワード：身体部位、顔、語義、顔による造語、意味用法

¹ 李毓清（2013）「各辞典に出た顔に関する単語、句、慣用句は全て『顔による造語』と呼ぶことにする」。2013年応用日語教学国際学術研討会 台湾 嘉義

身体部位「顔」の意味分析—日本語と中国語を兼ねて

李毓清

実践大学言語センター 講師

キーワード：身体部位、顔、語義、顔による造語、意味用法

1. はじめに

人間が他人と会ったときに最も顕著に目に入る身体部位は「顔」である。そして、人の喜怒哀楽の感情も凡そ「顔」から判明し、よって「顔」は私達が人と認識する場合に重要な役目を担っている。

今まで身体部位としての「顔」の語義及び造語に関する研究は、主に対照研究(田中・ケキゼ 2005、ラダポーン サイソンブーン 2006、アルモーアブドーラ 2010)、認知言語学の意味拡張(有菌 2008、ラダポーンサイソンブーン 2007、沖本 2009)、慣用的表現(林 八竜 2002)を中心に行なわれてきているが、辞典と類語辞典における「顔」に関する身体部位の研究はあまり見られない。

本研究は日本語の辞典(6種)、中国語の辞典(6種)、『分類語彙表』(2004)、『重編國語辭典修定版』(1994)を中心として、前二者12種における「顔」の語義を、後二者における「顔による造語」²の意味用法を研究対象とする。研究方法は各々の辞典に記されている「顔」の語義、「顔による造語」の意味用法に関する分類、解釈、用例数などの重なりとずれを抽出し個別に分析することによって考察したい。

「顔」の語義は、日本語の各辞典と中国語の各辞典を整理すると、類似する部分と相違する部分に分けられる。両言語の辞典に共に使われている「顔」の語義には<表情・態度・容貌>と<名誉・面目>の2つの項目がある。それぞれ独自に使用されるものには<頭部

² 李毓清(2013)「各辞典に出た顔に関する単語、句、慣用句は全て『顔による造語』と呼ぶことにする」。2013年応用日語教学国際学術研討会 台湾 嘉義

の前面>、<知名度>、<成員としての人>、<代表>、<物の表面>、<接尾語>、<「五」の数を言う符丁> (以上7つは日本語辞典に限った語義)、<額>、<色彩>、<姓>、<扁額>、<題字> (以上5つは中国語の辞典に限った語義) の計12項目がある。

類語辞典を調査した結果、用例数においては二者（中国語の類語辞典と日本語の類語辞典）には約150の類似点があった。そして、意味用法においては二者主に<表情・態度・容貌>の項目に集中することがわかった。また、分類項目の数については日本語の辞典は中国語のものより多く、二者の間に2.5倍近くの差が見られた。

類語辞典において「顔による造語」の意味用法の内容について、中国語と日本語にどのような重なりが見られるか。そして、同じ「顔による造語」の同形語（例えば、「顔色」、「紅顔」、「尊顔」、「天顔」、「竜顔」など）の意味用法において中国語と日本語の間に、どのような共通点或いは相違点があるか。さらに、中国語には同じ「顔による造語」が2つ以上の意味用法（例えば、「朱顔」は年寄りも少年も使われている）を持つ場合があるが、日本語にもこのような用法が見られるか。

以上について、中、日両言語における身体部位「顔」の意味用法を調査して両者の差異性に関わることを明らかにし、研究結果は中・日両言語の意味分析において参考資料となり得ることが期待される。

2. 先行研究

有蘭（2008）は、認知言語学の観点から身体部位「顔」は構造的側面、機能的側面、位置的側面及び形状的側面を持っていると論じた。「顔」を表す語の持つ種々の概念は形状的側面以外のいずれかの側面、又は複数の側面に基づいて意味が拡張し、その拡張した概念は更に別の概念へと拡張すると述べている。しかし、その論文では「構造」と「機能」の2側面に基づく意味拡張を抽出し論じ、それらの関係を説明したが、「位置」と「形状」的側面の概念については

詳述していない。

田中・ケキゼ（2005）も、認知言語学の面から顔を表す概念について日本語の「顔」とロシア語の「「лицо」」を比較した。二者共に重なる用法は「身体部分、容貌や表情の概念」、「全体を代表する」、「個性」、「人・物の側面」、「名誉」であり異なる用法は「人脈」（日本語での用法）と「個人そのもの」（ロシア語での用法）である。

ラダポーン サイソンプーン（2006）は、身体部位「顔」の意味拡張に焦点を合わせ、日本語の「顔」とタイの「nâa（顔）」を考察した。調査した結果、両言語において、「顔」は「人」、「人の一側面」、「体面・面目」、「心の動き」の4つの意味拡張が類似している。それに対して、日本語固有の意味拡張は「団体・カテゴリーを代表する人・もの」（メタファーによる）、「活動領域」、「もの・場所の一側面」、「知名度・影響力」（メトニミーによる）であり、タイ語固有の意味拡張は「料理の見掛け」であるとしている。

林八竜（イム パルヨン）（2002）は日本語と韓国語の身体語彙慣用句を対照し研究した。林氏の調査によると「顔」は頭部（口、顔、耳、頭、鼻、首）に属し、「顔」の身体語彙慣用句は、日本語には43例、韓国語には44例ある。そして、二者には31の類似する用例がある。

有菌を除いた、田中・ケキゼ、ラダポーンサイソンプーン、林八竜の研究はそれぞれロシア語、タイ語、韓国語と日本語を比較して考察した。日本語とロシア語では、二者の間に5つの類似する用法があり、日本語とタイ語の間では、4つの項目が意味拡張の点で類似している。日本語と韓国語との間でも類似している用例が31に達する。これらについて、表2.1に示す。

表 2.1 「顔」の用法において日本語とロシア語、タイ語、韓国語との類似点

語別	比較基準	類似している内容
日本語とロシア語	顔の表す概念	1. 「身体部分、容貌や表情の概念」、 2. 「全体を代表する」、3. 「個性」、 4. 「人・物の側面」、5. 「名誉」
日本語とタイ語	顔の意味拡張	1. 「人」、2. 「人の一側面」、 3. 「体面・面目」、4. 「心の動き」
日本語と韓国語	顔の慣用句	◆用例が 31 ある

以上の文献から見ると、身体部位「顔」の語義及び造語の研究は、主に認知言語学の立場或いは慣用句の側面から論じられていることがわかる。本論は辞典を分析することにより、中・日両言語における身体部位「顔」の意味用法を明らかにしたい。

3. 辞典における「顔」の語義

3.1 日本語辞典における「顔」の語義

本研究は 6 種の日本語辞典（『明鏡国語辞典』2008、『日本語大辞典』2001、『広辞苑』2008、『広辞林』1986、『日本語大辞典』1997、『Goo 辞典』2014）における「顔」の語義を抽出し分析する。

調査した結果、6 種に「顔」の語義が合計で 9 項目あった。それらは（1）「頭部の前面、目・鼻・口などがある部分」、（2）「顔形・顔立ち・容貌・顔付き・表情・態度・様子」、（3）「名誉・面目・体面」、（4）「知名度（名声）。また勢力。影響」、（5）「成員としての人」、（6）「ある組織・集団などの代表や典型となるもの」、（7）「接尾語」、（8）「物の表面」、（9）「五」の数を表す符丁である。

それぞれの辞典は、4～8 項目の「顔」の語義を解釈している。9 項目の語義のなかには 6 種の辞典全て提示されているものもあるし、1 種にしか掲載されていないものもある。統計した結果、「顔」の語義について 6 種にすべてに共通しているのは 3 つある。5 種で共通するのは 2 項目で、4 種で共通するのは 1 項目、3 種では 2 項目、1

種だけに示されているのは 1 項目あった。詳細を表 3.1.1 に示す。

表 3.1.1 6 種の日本語辞典における「顔」の語義の解釈の比較表

種数	項目の内容	項目数
6 種	(1) 頭部の前面、目・鼻・口などがある部分。 (2) 顔形・顔立ち・容貌・顔付き・表情・態度・様子。 (3) 名誉・面目・体面、	3
5 種	(4) 知名度（名声） (5) 成員としての人	2
4 種	(6) 組織・集団などの代表	1
3 種	(7) 「接尾語」、(8) 「物の表面」、	2
2 種		0
1 種	(9) 「五」の数を表す符丁	1
計		9

6 種に共通する「顔」の語義の内容は、(1) <頭部の前面目・鼻・口などがある部分>、(2) <顔形・顔立ち・容貌・顔付き・表情・態度・様子>と (3) <名誉・面目・体面>の 3 項目で、5 種に共通するのは (4) <知名度（名声）>と (5) <成員としての人>の 2 項目で、4 種に共通するのは (6) <組織・集団などの代表>の項目である。そして 3 種しかあげないのは (7) <「接尾語」>、(8) <「物の表面」>2 項目で、1 種だけに見られるのは (9) <「五」の数を表す符丁>の項目である。

表 3.1.2 各日本語辞典（6 種）に「顔の語義」を掲載された状況

項目	語義	種数	A ³	B	C	D	E	F
類似する部分 (6つ)	(1) 頭部の前面目・鼻・口などがある部分	6 種	O	O	O	O	O	O
	(2) 顔形・顔立ち・容貌・顔付き・表情・態度・様子		O	O	O	O	O	O
	(3) 名誉・名目・体面		O	O	O	O	O	O
	(4) 知名度（名声）	5 種	O	O	O	X	O	O
	(5) 成員としての人		X	O	O	O	O	O
	(6) 組織・集団などの代表	4 種	O	O	O	X	X	O
相違する部分 (3つ)	(7) 接尾語	2 種	X	X	O	X	O	O
	(8) 物の表面		X	X	O	X	O	O
	(9) 「五」の数を表す符丁	1 種	X	O	X	X	X	X
項目数			5	7	8	4	7	8

本研究は、便宜上 6 種の辞典の中で 4 種以上に共通して掲載されている「顔」の語義を「類似する部分」と定義する。それに対して、掲載されているのが 3 種以下のものを「相違する部分」と定義する。以上の定義によって、6 種の辞典に見られる 9 項目の「顔」の語義を表 3.1.2 にまとめる。

表 3.1.2 を見ると、6 種の辞典に類似するのは 6 項目あり、相違するのは 3 項目ある。9 項目ある「顔」の語義は、A 辞典（明鏡国語辞典）には 5 項目の掲載があり、B 辞典（『日本語大辞典』2001）7

³ A は『明鏡国語辞典』を、B は『日本語大辞典』2001 を、C は『広辞苑』を、D は『広辞林第六版』を、E は『日本語大辞典』1997 を、F は『Goo 辞典』を表す。

項目、C 辞典（『広辞苑』）8 項目、D 辞典（『広辞林』第六版）4 項目、E 辞典（『日本語大辞典』1997）7 項目、F 辞典（『Goo 辞典』）8 項目となっている。そして、C 辞典（『広辞苑』）と F 辞典（『Goo 辞典』）が掲載する 8 項目の内容は一致していた。

3.2 中国語辞典における「顔」の語義のまとめ：

6 種の中国語辞典（『教育部重編国語辞典修定版』1994、『中正形音義総合大字典』2003、『国語活用辞典』2000、『国民常用標準字典』（修訂本）1989、『中国大辞典』1994、『新編國語日報辞典』2005）には、「顔」の語義は 7 項目ある。それらは（1）「額（眉の間）」、（2）「顔付・表情・容貌」、（3）「名誉・面目」、（4）「色彩」、（5）「姓（名字）」、（6）「扁額」、（7）「題字」である。

各々の辞典も編纂者によって 4～6 つの「顔」の語義が解釈されている。

7 項目のうち、6 種の辞典すべてに掲載されているものもあるし、1 種でしか述べられていないものもある。6 種に共通しているのは 3 項目で、5 種、4 種及び 2 種で取り上げられているものがそれぞれ 1 項目である。1 種しか掲載していないのも 1 項目ある。表 3.2.1 に上記の内容を示す。

表 3.2.1 6 種の中国語辞典における「顔」の語義の解釈の比較表

種数	項目の内容	項目数
6 種	(2) 顔付・表情・容貌、(4) 色彩、(5) 姓（名字）	3
5 種	(3) 名誉・面目	1
4 種	(1) 額（眉の間）	1
3 種		0
2 種	(6) 扁額	1
1 種	(7) 題字	1
計		7

中国語辞典において6種共に挙げた「顔」の語義は(2)＜顔付・表情・容貌＞(4)＜色彩＞、(5)＜姓(名字)＞の3項目で、5種に共通するのは(3)＜名誉・面目＞の項目で、そして4種共に共通するのは(1)＜額(眉の間)＞の項目である。さらに、2種だけがあげたのは(6)＜扁額＞の項目で、1種しかあげていないのは(7)＜題字＞の項目である。

本研究の日本語の辞典の処理方法と同じように便宜上、4種以上に共通する「顔」の語義を「類似する部分」と定義する。そして、3種以下に掲載されているものを「相違する部分」と定義する。以上の内容を表3.2.2に示す。

表 3.2.2 各中国語辞典(6種)に「顔の語義」の出た状況

項目	語義	種数	A ⁴	B	C	D	E	F
類似する部分 (5つ)	(1) 額(眉の間)	4種	O	O	O	O	X	X
	(2) 顔付・表情・容貌	6種	O	O	O	O	O	O
	(3) 名誉・面目	5種	O	X	O	O	O	O
	(4) 色彩	6種	O	O	O	O	O	O
	(5) 姓(名字)		O	O	O	O	O	O
相違する部分 (2つ)	(6) 扁額	2種	O	O	X	X	X	X
	(7) 題字を書く	1種	X	X	X	X	O	X
項目数			6	5	5	5	5	4

⁴ Aは『教育部重編国語辞典修定版』を、Bは『中正形音義総合大字典』を、Cは『国語活用辞典』を、Dは『国民常用標準字典(修訂本)』を、Eは『中國大辞典』を、Fは『新編國語日報辞典』を表す。

表 3.2.2 を見ると 6 種の辞典には「類似する部分」が 5 項目あり、「相違する部分」が 2 項目ある。7 つの「顔」の語義において、A 辞典（『教育部重編国語辞典修定版』）には 6 項目の記述があり、B 辞典（『中正形音義総合大字典』）、C 辞典（『国語活用辞典』）、D 辞典（『国民常用標準字典（修訂本）』）、E 辞典（『中國大辞典』）は共に 5 項目となっている。そして、F 辞典（『新編國語日報辞典』）は 4 項目だけを挙げている。6 種の辞典に見られる「顔」の語義について、C 辞典と D 辞典は同じ項目数と語義内容になっている。

3.3 「顔」の語義について中国語辞典と日本語辞典との比較

3.1 と 3.2 では各々日本語辞典（6 種）と中国語辞典（6 種）の「顔」の語義を比較して分析したが、日、中両国双方の辞典にどのような重なりとずれがあるのか、次に明らかにしたい。

前に述べたように、日本語の各辞典を調査した結果、類似するのは 6 項目、相違する部分は 3 項目で、それに対して、中国語のほうは類似するのは 5 項目で、相違する部分は 2 項目である。これらをまとめて次の表 3.3 に示す。

表 3.3 日、中国語辞典における「顔」の語義の比較表

項目	日本語辞典における「顔」の語義		中国語辞典における「顔」の語義	
類似する部分	6 つ	(1) 頭部の前面、目・鼻・口などがある部分。	5 つ	(1) 額（眉の間）
		(2) 顔形・顔立ち・容貌・様子・態度・顔付き・表情。		(2) 顔付き・表情・容貌・様子
		(3) 対面・面目。名誉。		(3) 名誉・面目
		(4) 知名度（名声）。勢力。影響。		(4) 色彩

		(5) 成員としての人		(5) 姓
		(6) ある組織・集団などの代表や典型となるもの。		
相 違 部 分	3 つ	(7) 接尾語、 (8) 物の表面、 (9) 「五」の数を表す符丁	2 つ	(6) 扁額 (7) 題字

表 3.3 をもとに、以下のことがまとめられる。

- A、「顔」の語義に関して、日本語の辞典も中国語の辞典も類似する部分と相違する部分が見られる。
- B、「顔」の語義の内容と用法について、類似する部分も相違する部分も日本語の辞典は中国語の辞典より多い。
- C、日、中両国語辞典で共に使われている「顔」の語義は、＜顔付き・表情・容貌・様子＞、＜名誉・面目＞の2項目である。
- D、日本語の辞典にある＜知名度＞、＜成員としての人＞、＜代表＞、＜物の表面＞、＜接尾語＞、＜「五」の数を表す符丁＞の用法は、中国語の辞典に見られない。
- E、中国語の辞典に使われている＜色彩＞、＜姓＞、＜扁額（へんがく）＞、＜題字＞の用法は、日本語の辞典に見られない。
- F、「(1)の語義」については、両言語辞典ともに身体部位に属するが、身体は日本語（頭部の前面）のほうが中国語の辞典（額）より大きいと言える。

4. 類語辞典における「顔による造語」の考察

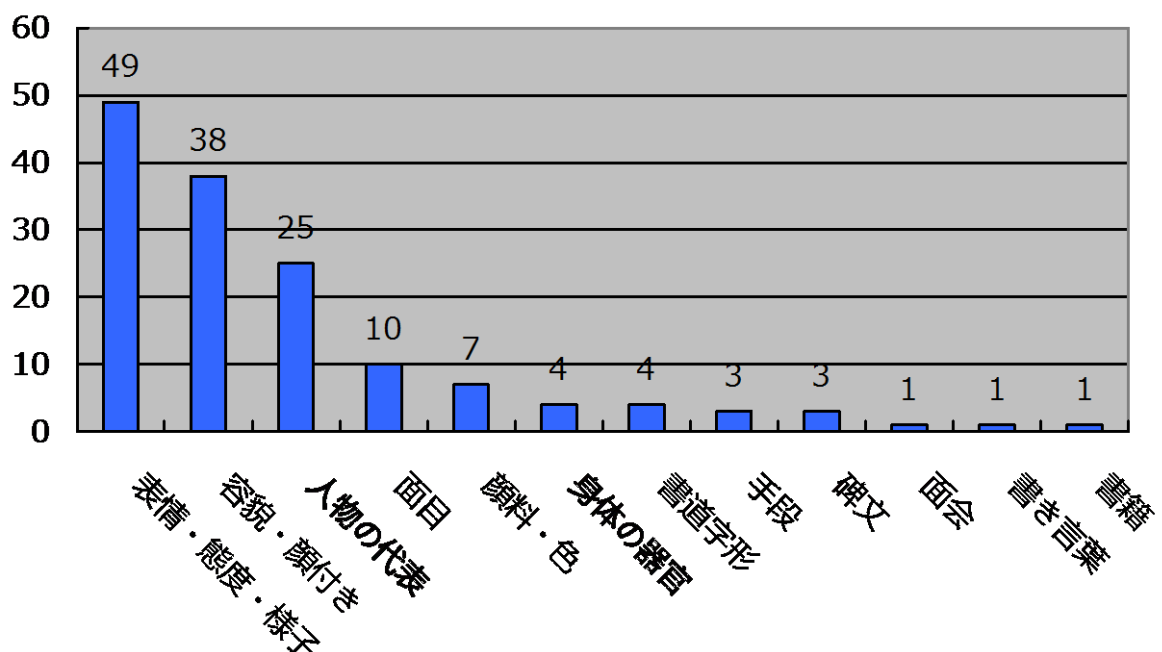
3.1、3.2 はそれぞれ中国語、日本語の辞典における「顔」の語義を分析し比較したが、辞典の紙幅の制限で、「顔」に関する用法を詳しく陳述することが十分できないので、次に類語辞典から中国語、日本語における「顔による造語」の意味用法を考察し、双方の類似点と相違点を比較し分析したい。

4.1 中国語の類語辞典について

本研究は『中華民國教育部重編國語辭典修訂版』（1994 ネット版以下『重編國語辭典修訂版』）を類語辞典の研究対象として、其の中に「顔による造語」の意味用法と用例数を調査し分析する。

調査した結果、用例数は 145 あって、意味用法は 12 項目に分けられる。それらは (1) 表情・態度・様子 (用例数 49)、(2) 容貌・顔つき (用例数 38) (1 と 2 をあわせると用例数 87、全体の 60% を占めている)、(3) 人物の代表 (用例数 25)、(4) 面目・名誉・体面 (用例数 10)、(5) 顔料・色 (用例 6)、(6) 身体の器官 (用例数 4)、(7) 書道の字形 (用例数 4)、(8) 手段 (用例数 3)、(9) 碑文 (用例数 3)、(10) 面会 (用例数 3)、(11) 書き言葉 (用例数 1)、(12) 書籍名 (顔氏家訓) (用例数 1) であり各項目の意味用法、用例数は図 4.1 ようにまとめられる。なお、各項目の内容と用例を下記の 4.1.1～4.1.12 に陳述する。

図4.1 中国語の類語辞典における「顔による造語」の意味用法



4.1.1 表情・態度・様子 (49) の意味用法

図 4.1 によりますと表情・態度・様子の用例数が全体において一番多く、意味用法はまた＜感情に関する表情（喜怒哀楽）＞、＜人間の行為によって生じた態度・様子＞に下位分類することができる。前者の用例数は 26 であり、後者は 23 である。各分類の内容は下記のようにまとめられる。

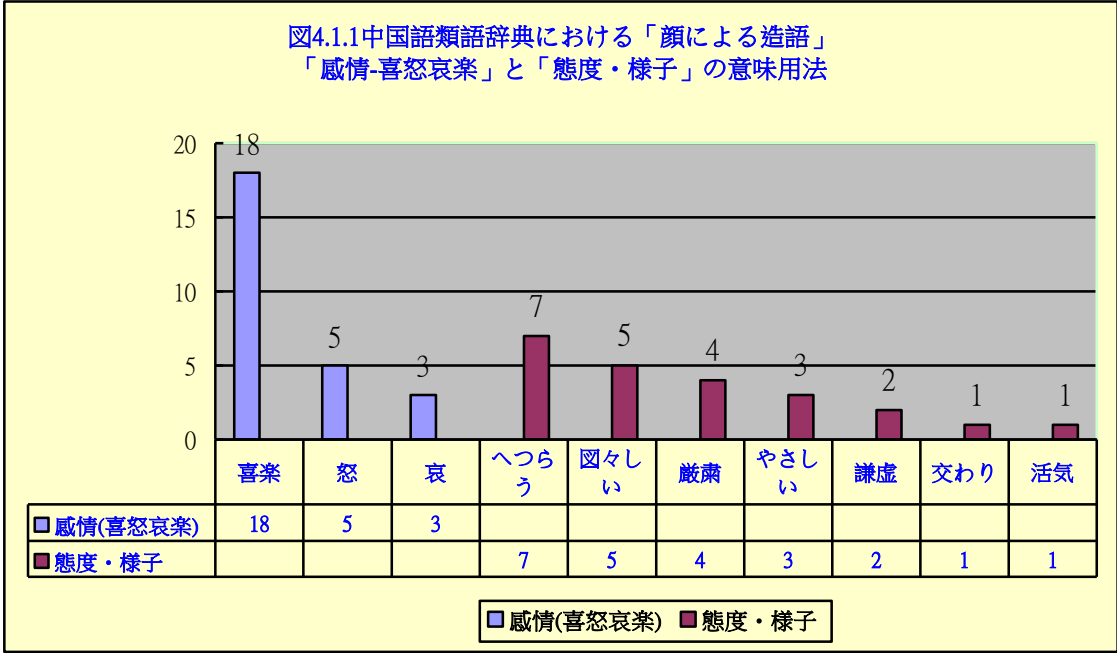
a. ＜感情に関する表情—喜怒哀楽＞（26）：

＜感情に関する表情—喜怒哀楽＞（以下「感情—喜怒哀楽」と呼ぶ）の意味用法は考察した結果、喜（楽）、怒、哀の側面に分けられる。＜喜（楽）＞の「顔による造語」は「開顔、和顔、和顔下氣、和顔悅色、歡顔、喜笑顔開、喜逐顔開、笑逐顔開、啟顔、展顔、怡顔、怡顔悅色、破顔、破顔微笑、披顔、解顔、強顔、強顔歡笑」の計 18 である。そして、＜怒＞の造語に属するのは「分顔、變顔、反顔、犯顔、犯顔苦諫」の 5 つで、＜哀＞の造語は「毀顔、愁顔不展、摧顔」の 3 つである。用例数の順位は「喜、楽」＞怒＞哀で、感情を表す「顔による造語」は、喜（楽）（18）の用法が怒（5）と＜哀＞（3）の用法より頻繁に使われることがはっきりわかる。

b. ＜人間の行為によって生じた態度・様子＞（23）：

「顔による造語」は顔だけではなく、＜人の行為に生じた態度・様子＞にたとえられることもある。調査した結果、この項目に属する「顔による造語」は 23 あり、意味用法によって＜へつらう＞、＜図々しい＞、＜厳肅＞、＜優しい＞、＜謙虚＞、＜交わり＞、＜活気＞という下位分類ができる。＜へつらう＞に属する用例は「婢膝奴顔、奴顔婢睞、奴顔婢膝、奴顔媚骨、承顔、承顔候色、承顔順旨」の 7 つで、＜図々しい＞に属するのは「覷顔、覷顔借命、覷顔事仇、厚顔、厚顔無恥」の 5 つである。そして、＜厳肅な態度＞に属するのは「正言厲顔、正顔、正顔厲色、抗顔」の 4 つで、＜優しい＞に属するのは「假以顔色、改顔、霽顔」の 3 つで、＜謙虚＞に属する用例は 2 つあり、「低顔、低顔下膝」である。＜交わり＞に属するのは「不徇顔面」は 1 つで、＜活気＞に属するのも「沒顔著色」1

っだけである。以上によると、「人間の行為によって生じた態度・様子」における「顔による造語」は、マイナス評価（へつ



らう態度、図々しい態度）とプラス評価（やさしい態度、謙虚な態度、活気）があり、マイナスの用法がプラスの用法より多いことがわかる。図 4.1.1 と表 4.1.1 にこのことを示す。

表 4.1.1 重編國語辭典修訂本：「顔」の造語における表情・態度・様子の意味用法

意味用法	下位分類	下位項目：用例
表情・ 態度・ 様子 (49)	感情に関する 表情—喜怒哀 楽 (26)	喜 (18)：「開顔、和顔、和顔下氣、和顔悅色、 歡顔、喜笑顏開、喜逐顏開、笑逐顏 開、啟顔、展顔、怡顔、怡顔悅色、 破顔、破顔微笑、披顔、解顔、 <u>強顔</u> 、 強顔歡笑」
		怒 (5)：「分顔、變顔、反顔、犯顔、犯顔苦諫 (君主や上役の威嚴を犯す)」
		哀 (3)：「毀顔、愁顔不展、摧顔」

	態度・様子 (23)	へつらう (7): 「婢膝奴顔、奴顔婢睨、奴顔婢膝、奴顔媚骨、 承顔、 承顔候色、承顔順旨」
		図々しい (あつかましい) 態度 (5): 「靦顔、靦顔借命、靦顔事仇、厚顔、厚顔無恥」
		厳粛な態度 (4): 正言厲顔、正顔、正顔厲色、抗顔
		優しい態度 (3): 「假以顔色、改顔、霽顔」
		謙虚な態度 (2): 「低顔、低顔下膝」
		交わり (1): 「不徇顔面」
		活気 (1): 「沒顔著色」

4.1.2 容貌・顔付き (38) の意味用法

容貌・顔付きの意味用法はまた a. 年齢層 (年寄り、少年、壮年)、b. 人の容貌・顔付き、c. 身分 (帝王、女子)、d. 尊称、e. 容色の下位項目に分けられる。各項目と用例を次に示す。

a. <年齢層> (16):

「白髪紅顔、白髪朱顔、白髪蒼顔、碧眼童顔、童顔、童顔鶴髪、鶴髪童顔、皓首蒼顔、朱顔鶴髪、衰顔、秋顔、蒼顔」これらの 12 用例はすべて年寄りを表す造語で、中には色 (紅顔、朱顔、蒼顔)、季節 (秋顔)、童 (童顔) と顔を合わせる用語で、年寄りを示すことがみられる。そして「緑鬢朱顔、韶顔稚齒、朱顔」の 3 例は少年を、「盛顔」は壮年を表す造語である。この調査データによると、年寄りに関する「顔による造語」は少年、壮年よりずっと多いことがわかる (「年寄り > 少年 > 壮年」)。この項目の意味用法で、「顔による造語」は「年寄り」、「壮年」と「少年」と、違う年齢層が表せることがわかる。

b. <人の容貌・顔つき> (12)

「顔の造語」において単なる人の容貌・顔付きを示して、それらは「駐顔、駐顔有術、容顔、顔面、顔色兒、養顔、養顔有術、清顔、酡顔、慈顔、得了些顔色就開啓染房來、形於顔色」である。

c. <身分> (5) :

この項目は帝王と女子 2 つに分類され、5 つの用例が示されている。「天顔、隆顔、龍顔」は帝王を、「花顔月貌、玉顔」は女子の身分を示す。「顔による造語」は性別に関わりなく使われる。

d. <尊称> (4) :

尊顔を表す造語は「仙顔、芝顔、尊顔、顔範」の 4 つで、目上に対して、或いは、人の容貌を尊敬の意をもって呼ぶときに使われる。

e. <容色> (1) :

西遊記の第二十三回「小女俱有幾分顔色，女工針指，無所不會。」に見られる「顔色」は女子の美しい容貌・容色を表す。

以上の分析結果から見ると、容貌・顔付きの意味用法は主に年齢層、人の容貌・顔付の項目に集中することがわかる。用例数の順位は年齢層 (16) > 人の容貌・顔付 (12) > 身分 (5) > 尊称 (4) > 容色 (1) である。下記の図 4.1.2、表 4.1.2 にこれを示す。

図4.1.2 中国語類語辞典：「顔による造語」における
容貌・顔付きの意味用法

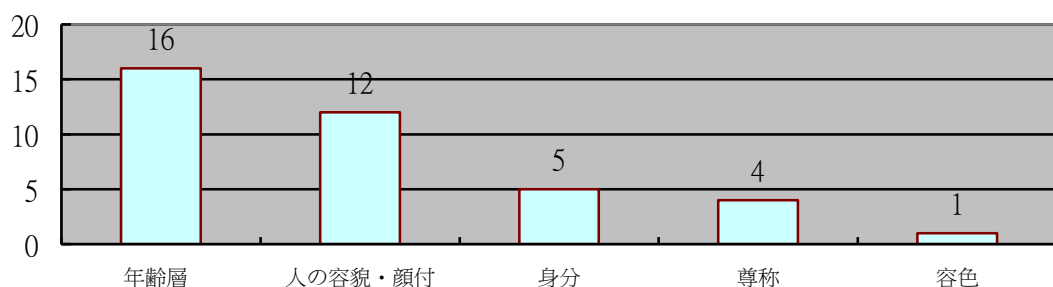


表 4.1.2 重編國語辭典修訂本「顔」の造語における容貌・顔付きの意味用法

意味 用法	下位分類	下位項目：用例
容貌 ・ 顔付き (38)	a. 年齢層 (16)	◆年寄り（12）： 白髪<u>紅顔</u>、白髪<u>朱顔</u>、白髪蒼顔、碧眼童顔、童顔、 童顔鶴髪、鶴髪童顔、皓首蒼顔、<u>朱顔</u>鶴髪、衰顔、 秋顔、蒼顔、 ◆少年（3）：緑鬢朱顔、韶顔稚齒、<u>朱顔</u>、 ◆壮年（1）：盛顔
	b. 人の容貌 (12)	駐顔、駐顔有術、容顔、顔面、顔色兒、養顔、養顔有術、清顔、酡顔、慈顔、得了些 <u>顔色</u> 就開啟染房來、形於 <u>顔色</u>
	c. 身分（5）	◆帝王（3）：天顔、隆顔、龍顔 ◆女子（2）：花顔月貌、玉顔
	d. 尊称（4）	仙顔、芝顔、尊顔、顔範
	e. 容色（1）	<u>顔色</u>

4.1.3 人物の代表の意味用法

表 4.1.3 のように、人物の代表の意味用法は、さらに＜特定の人物＞、＜人名で物事を喩える＞、＜人名＞の 3 つに下位分類できる。

a. ＜特定の人物＞（9）

特定の人物の意味用法は美人、役人、悪者、善人などを表して、美人を表す「顔による造語」は「紅顔、朱顔粉面、書中有女顔如玉、紅顔薄命、自古紅顔多薄命」で、そして、「鈞顔」は役人を、「盗跖顔淵」の「盗跖」は悪者を、「顔淵」は善人を喩えている。

b. 人名による物事の比喩（2）

「錯認顔標」は無知を、「顔闔鑿培」は、役人として出世する道を断たれて、隠居のような生活を送ることを比喩する。

c. 人名（14）

次の例のように、単に人の名前を示す。顔柳（顔真卿、柳公権を指す。二人とも唐の時代の有名な書道家）、顔杲卿、顔（顔回）苦孔卓、

顔回、顔真卿、顔師古、顔之推、顔水龍、顔子淵、顔延之、顔淵、顔元、完顔、完顔阿骨打。これを表 4.1.3 に示す。

表 4.1.3 「顔」の造語における人物代表の意味用法

意味用法	下位分類	用例
人物の代表 (34)	a. 特定の人物 (9)	紅顔 (美人・少年)、鈞顔 (役人)、 <u>朱顔</u> 粉面 (お化粧した女子)、書中有女顔如玉、顔如玉 (綺麗な女子)、紅顔 (美人) 薄命、紅顔命薄、自古 <u>紅顔</u> 多薄命、盜跖顔淵 (悪者、善人)
	b. 人の人名でことを譬える (2)	錯認顔標、顔闔鑿培
	c. 人名 (14)	顔 (顔真卿) 柳、顔杲卿、顔苦孔卓 (顔回)、顔回、顔真卿、顔師古、顔之推、顔水龍、顔子淵、顔延之、顔淵、顔元、完顔、完顔阿骨打

4.1.4 面目 (名譽・体面) の意味用法

面目・名譽・体面の意味用法は<面目・名譽・体面>、<恥ずかしい>の2項目に分けられる。これを表 4.1.4 に示す。

a. <面目>

面目を表す「顔による造語」が「沒顔色」、「無顔」、「無顔見江東父老」(人に合わせる顔がない)の三つある。

b. <恥ずかしい>

私達人間は恥をかいたときに自然に顔が赤くなり、汗が出て、そして居てもたっても居られなくなる。この<恥ずかしい>項目に属する「顔の造語」は7つあり、それらは「赧顔、赧顔汗下、汗顔、寄顔無所、強顔、措顔無地、覷顔」で、前述の<面目>の用例数より多い。これを表 4.1.4 に示す。

表 4.1.4 「顔」の造語における面目・名誉・体面の意味用法

意味用法	下位分類	用例
面目・名誉・体面	面目 (3)	没顔色、無顔、無顔見江東父老（人に合わせる顔がない）
	恥ずかしい (7)	赧顔、赧顔汗下、汗顔、寄顔無所、 <u>強顔</u> 、措顔無地、 <u>靦顔</u>

4.1.1～4.1.4 の分析によって、「表情・態度・様子」、「容貌・顔付き」、「人物の代表」、「面目・名誉・体面」4 項目の意味用法はともに 2 つ以上の下位分類に分けられて、それに対して下記の 4.1.5～4.1.12 の 7 項目は単なる 1 つの意味用法が使われている。

4.1.5 顔料・色の意味用法

中国語において、「色（いろ）」に関する語彙は、一般的に「顔料（yan liao）」と「顔色（yan se）」で表す。この顔料・色の項目にある「顔による造語」は「離了靛缸，染不著顔色、廣告顔料、發光顔料、顔料、顔色、顔色兒、五顔六色」の 7 つである。表 4.1.5 に示す。

表 4.1.5 「顔」の造語における顔料・色の意味用法

意味用法	用例	数
顔料・色	離了靛缸，染不著顔色、廣告顔料、發光顔料、顔料、 <u>顔色</u> 、顔色兒、五顔六色、	7

4.1.6 器官の意味用法

「顔（yan）」の言葉はもともと身体器官の一部分を表す。類語辞典に見られる「器官」を表す「顔による造語」は 4 つあり、それらは「顔面骨、顔面角、顔面神経、顔」である。表 4.1.6 に示す。

表 4.1.6 「顔」の造語における器官の意味用法

意味用法	用例	数
器官	顔面骨、顔面角、顔面神経、顔	4

4.1.7 書道字形の意味用法

「顔真卿（がんしんけい）」と「柳公権（りゅうこうけん）」はともに唐代における四大楷書家に含まれる人物である。後世、「顔体、顔骨柳筋、顔筋柳骨、顔字」は書道の字形、二人（顔氏と柳氏）の書道の特徴を表すようになった。下記表 4.1.7 に示す。

表 4.1.7 「顔」の造語における書道字形の意味用法

意味用法	用例	数
書道字形	顔體、顔骨柳筋、顔筋柳骨（がんきんりゅうこつ）、顔字、	4

4.1.8 手段の意味用法

「顔」はひどい「手段」を表すことがあり、表 4.1.8 に示す造語は日本語の「仕返し」の意味に類似している。

表 4.1.8 「顔」の造語における手段の意味用法

意味用法	用例	数
手段	給以顔色、顔色、還以顔色	3

4.1.9 碑文の意味用法

「顔による造語」において、碑文の意味用法に表 4.1.9 に示すように、3つの用例がある。「爨龍顔碑（さんりゅうがんひ）」とは中

国の南北朝時代、南朝の宋で大明 2（458）年に建てられた地元豪族の墓碑である。「顔家廟碑」は顔真卿が、父顔惟貞のために作った家廟に、顔家の履歴を残すために建てた碑で、「顔勤禮碑」（779）は顔真卿が曾祖父勤禮の為に建てた碑である。「顔家廟碑」と「顔勤禮碑」は顔法書風の代表的作品である。

表 4.1.9 「顔」の造語における碑文の意味用法

意味用法	用例	数
碑文	爨龍顔碑、顔家廟碑、顔勤禮碑、	3

4.1.10 面会の意味用法

この項目の意味用法は、「承顔接辭」（お目にかかれて嬉しい）のみで、ここの「承顔」は「会える・面会できる」という意味を表す。表 4.1.10 に示す。

表 4.1.10 「顔」の造語における面会の意味用法

意味用法	用例	数
面会	承顔接辭	1

4.1.11 書き言葉の意味用法

「久違顔範」は手紙文において、無沙汰を詫びる丁寧な書き言葉である。表 4.1.11 に示す。

表 4.1.11 「顔」の造語における 書き言葉の意味用法

意味用法	用例	数
書き言葉	久違顔範	1

4.1.12 書籍名の意味用法

「顔氏家訓」は、中国北齊の顔之推が著した家訓で、子々孫々に対する訓戒の書である。表 4.1.12 に示す。

表 4.1.12 「顔」の造語における書籍の意味用法

意味用法	用例	数
書籍	顔氏家訓	1

4.1.1～4.1.12 の分析結果から見ると、中国語の類語辞典に「顔による造語」意味用法は「身体の器官」から人間の「表情・態度・様子」、「容貌・顔付き」、「面目」、付き合いの「面会」へ広がって、そして抽象的な「人物の代表」、「手段」、具体的な事物「顔料・色」、「書道字形」、「碑文」、「書籍」、「書き言葉」まで幅広く使用される。またその項目は 12 あるが、用例数（145）は少数の項目に集中していて、10 以上のものは「表情・態度・様子」（49）、「容貌・顔付」（38）、「人物の代表」（25）、「面目」（10）の 4 項目だけで、特に「表情・態度・様子」、「容貌・顔付」の 2 項目で全体の 60% を占めていることがわかった。

4.2 「顔による造語」（中国語の類語辞典）の意味用法の多様化

4.1 で「顔による造語」の意味用法は 12 項目あることがわかった。そして、1 つの「顔による造語」の同形語が 2 つ以上の意味用法を有することが見られた。調査した結果この条件にふさわしい造語は 5 つであり、それらは「朱顔」、「顔色」、「紅顔」、「強顔」、「靦顔」で、次のようにまとめられる。

◆ 「朱顔 zhu yan」について

「朱顔」が容貌・顔付き（4.1.2）の a 年齢層で＜年寄り＞の「白髮朱顔」にも、＜少年＞の「緑鬢朱顔」、「朱顔」にも使われている。さらに、4.1.3 における人物の代表の a 特定の人物＜お化粧した女子＞「朱顔粉面」）にも使用されている。これらを表 4.2.1 に示す。

表 4.2.1 「朱顔」の意味用法

朱顔の造語	分類項目	意味用法	分類番号
白髪朱顔	容貌・顔付き	年齢層：年寄り	4.1.2
緑髻朱顔、朱顔	容貌・顔付き	年齢層：少年	4.1.2a
朱顔粉面	人物の代表	特定の人物：化粧した 女子	4.1.3a

◆「顔色 yan se」について

表 4.2.2 に示すとおり、「顔色」が容貌・顔付きの＜容色＞「顔色 yan se」(4.1.2b)、＜人の容貌＞「形於顔色 yan se」(4.1.2e)、顔料・色の「顔色 yan se」(4.1.5)、手段の「顔色、還以顔色 yan se」(4.1.8) に使用されている。

表 4.2.2 「顔色」の意味用法

顔色の造語	意味用法	下位分類	分類番号
顔色	容貌・顔付き	容色	4.1.2b
形於顔色		人の容貌	4.1.2e
顔色	顔料・色		4.1.5
顔色	手段		4.1.8

◆「紅顔 hong yan」について

「紅顔」が容貌・顔付きの＜年寄り＞の「白髪紅顔」(4.1.2a) にも人物の代表の＜特定の人物＞の「紅顔（美人・少年）、紅顔薄命（美人）」(4.1.3a) にも使われている。表 4.2.3 に詳細を示す。

表 4.2.3 「紅顔」の意味用法

紅顔の造語	意味用法	下位分類	分類番号
白髪紅顔	容貌・顔付き	年齢層：年寄り	4.1.2a
紅顔、紅顔薄命	人物の代表	特定の人物（美人・少	4.1.3a

		年)	
--	--	----	--

◆「強顔 jiang yan」について

表 4.2.4 に示す通り「強顔」が表情・態度・様子の＜感情の喜＞（4.1.1a）と面目・名誉・体面の＜恥ずかしい＞（4.1.3）に使用されている。

表 4.2.4 表 4.2.4「強顔」の意味用法

強顔の造語	意味用法	下位分類	分類番号
強顔	表情・態度・様子	感情－喜	4.1.1a
強顔	面目・名誉・体面	恥ずかしい	4.1.4

◆「靦顔 tian yan」について

「靦顔」が表情・態度・様子の＜態度・様子：図々しい＞（4.1.1）と面・名誉・体面の＜恥ずかしい＞（4.1.4）に使われている。表 4.2.5 に詳細を示す。

表 4.2.5 「靦顔」の意味用法

靦顔の造語	意味用法	下位分類	分類番号
靦顔	表情・態度・様子	態度・様子：図々しい	4.1.1
靦顔	面目・名誉・体面	恥ずかしい	4.1.4

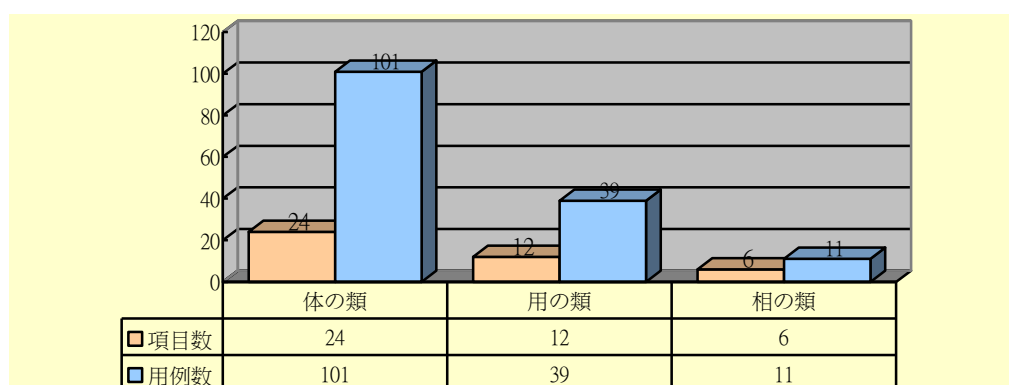
4.3 日本語の類語辞典について

4.3.1 『分類語彙表』における「顔による造語」の分類項目

本研究は『分類語彙表増補改訂版 2004』（以下分類語彙表）を日本語の類語辞典を調査対象として調査した。その結果、「顔による造

語」の用例数は151で、分類項目は31あった。31項目は「体の類」(101)⁵、「用の類」(39)、「相の類」(11)に分けられ、そのうち約3分の2である66.9%が「体の類」に属していた。「体の類」に属する下位項目は24あり、それらは風・観・姿(1)、往復(1)、統一・組み合わせ(1)、限定・優劣(1)、形・型・姿・構え(2)、相手・仲間(1)、友・なじみ(2)、人物(4)、長(1)、表情・態度(45)、信念・努力・忍耐(2)、見せる(1)、評判(1)、芸術・美術(2)、保健・衛生(3)、交わり(1)、集会(1)、出欠(1)、応接・送迎(3)、公式・公平(1)、興行(1)、色(2)、草本(2)、頭・目鼻・顔(21)で、計101の用例数があった。「用の類」に属する項目は12あり、それらは表情・態度(8)、評判(8)保健・衛生(3)、交わり(1)、集会(2)、出欠(2)、応接・送迎(7)、往復(2)、方向・方角(2)、自信・誇り・恥・反省(2)、待遇(1)、病気・体調(1)で、計39の用例数あった。「相の類」に属するのは、表情・態度(3)、交わり(1)、自信・誇り・恥・反省(4)、生理・病気など(1)、欲望・期待(1)、失望(1)の6項目で、計11の用例数があった(項目数も用例数も共に体>用>相の順序)。図4.3.1にこれを示す。

図4.3.1分類語彙表における「顔による造語」の項目数と用例数



「体の類」、「用の類」、「相の類」の三類に属する項目は<表情・態度>、<交わり>で、「体の類」と「用の類」に共通して属するのは<評判>、<保健・衛生>、<集会>、<出欠>、<応接・送迎>

⁵ () は「顔による造語」の数を表す

で、「用の類」と「相の類」に属するのは＜自信・誇り・恥・反省＞、＜病気・体調＞であった。表 4.3.1 に示す。

表 4.3.1 各類別（体、用、相）に重なる意味用法

別 意味用法 \ 類	体の類	用の類	相の類
表情・態度	○	○	○
交わり	○	○	○
評判	○	○	
保健・衛生	○	○	
集会	○	○	
出欠	○	○	
応接・送迎	○	○	
自信・誇り・恥・反省		○	○
病気・体調		○	○

『分類語彙表』の分類項目における「顔による造語」の数は 31 項目に達するが、多くの項目の用例数は 5 以下で、用例数が 5 以上の項目は＜表情・態度（45）＞、＜頭・目鼻・顔（21）＞、＜応接・送迎（10）＞、＜評判（9）＞、＜保健・衛生（6）＞、＜自信・誇り・恥・反省（6）＞の 6 つだけである。それを示したのが図 4.3.2 である。

そして、「顔による造語」は主に＜表情・態度＞（56）、＜頭・目鼻・顔（21）＞、の 2 項目に集中している。表 4.3.2 が示すように、特に＜表情・態度＞は全体の 4 割近く（37％）を、＜頭・目鼻・顔＞は全体の約 14％を占めていて、2 項目の数をあわせると、全体の半分以上（51％）を占めている。表 4.3.2 に示す。

図4.3.2「顔による造語」用例数が5以上の項目

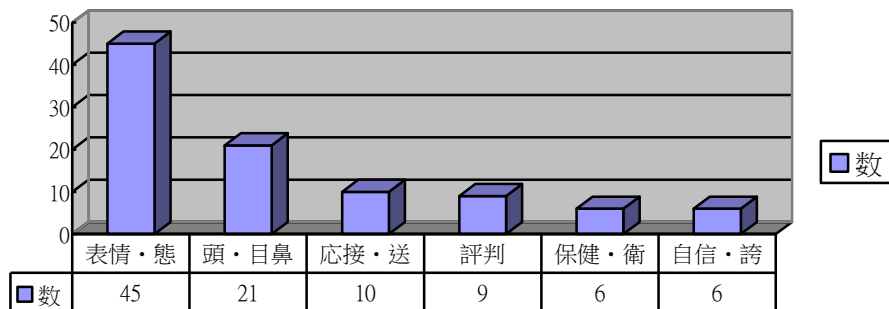


表 4.3.2『分類語彙表』における「顔による造語」の分類項目

N o	体の類（二十四項目）	用の類（十二項目）	相の類（六項目）	計
1	風・観・姿（1）			1
2	往復（1）			1
3	統一・組み合わせ（1）			1
4	限定・優劣（1）			1
5	形・型・姿・構え（2）			2
6	相手・仲間（1）			1
7	友・なじみ（2）			2
8	人物（4）			4
9	長（1）			1
10	表情・態度（45）	表情・態度（8）	表情・態度（3）	56（37%）
11	信念・努力・忍耐（2）			2
12	見せる（1）			1
13	評判（1）	評判（8）		9
14	芸術・美術（2）			2

15	保健・衛生 (3)	保健・衛生 (3)		6
16	交わり (1)	交わり (1)	交わり (1)	3
17	集会 (1)	集会 (2)		3
18	出欠 (1)	出欠 (2)		4
19	応接・送迎 (3)	応接・送迎 (7)		10
20	公式・公平 (1)			1
21	興行 (1)			1
22	色 (2)			2
23	草本 (2)			2
24	頭・目鼻・顔 (21)			21(14%)
25		往復 (2)		2
26		方向・方角 (2)		2
27		自信・誇り・恥・反省 (2)	自信・誇り・恥・反省 (4)	6
28		待遇 (1)		1
29		病気・体調 (1)	生理・病気など (1)	2
30			欲望・期待 (1)	1
31			失望 (1)	1
合計	101 (66.9%)	39 (25.8%)	11 (7.3%)	151

4.3.2 『分類語彙表』における「顔による造語」意味用法と用例

分類語彙表は、品詞別によって「体の類」(名詞の仲間)、「用の類」(動詞の仲間)、「相の類」(形容詞の仲間)、その他の仲間の4類に分けられている。本研究の調査で、「顔による造語」は「体の類」、「用の類」、「相の類」に分布している。次はそれらの項目別における「顔による造語」の意味用法を分析する。

4.3.2.1 「体の類」における「顔による造語」の意味用法

「体の類」において、「顔による造語」の用例数は 101 で、24 項目に分布している。それらの用例は表 4.3.2.1 のとおりである。

「体の類」における「顔による造語」の各項目の用例数は、主に＜表情・態度＞（45）と＜頭・目鼻・顔＞（21）の二項目に集中していて、全体の 65% 以上を占めており、他の項目の用例数はすべて 5 以下であることがわかった。用例数をその多さの順で列挙すると、表情・態度（45）＞頭・目鼻・顔（21）＞人物（4）＞保健・衛生（3）＞応接・送迎（3）＞形・型・姿・構え（2）＞友・なじみ（2）＞信念・努力・忍耐（2）＞芸術・美術（2）＞色（2）＞草本（2）＞風・観・姿（1）＞往復（1）＞統一・組み合わせ（1）＞相手・仲間（1）＞長（1）＞見せる（1）＞評判（1）＞交わり（1）＞集会（1）＞出欠（1）＞公式・公平（1）＞興行（1）となる。

表 4.3.2.1 「体の類」における「顔による造語」の意味用法

No	意味用法	用例
1	風・観・姿（1）	顔つき
2	往復（1）	顔出し
3	統一・組み合わせ （1）	顔そろい
4	限定・優劣（1）	顔負け
5	形・型・姿・構え （2）	顔形、顔立ち
6	相手・仲間（1）	顔ぶれ
7	友・なじみ（2）	顔見知り、顔なじみ
8	人物（4）	顔利き、古顔、初顔、新顔
9	長（1）	顔役
10	<u>表情・態度</u> （45）	いやな顔をする、顔つき、顔色（がんしょく）、

		顔色（かおいろ）、温顔、慈顔、真顔、酔顔、 澄ました顔、おどけ顔、所得顔、心得顔、したり顔、手柄顔、得意顔、大きな顔、我が物顔 知らぬ顔、知らん顔、素知らぬ顔、 知らぬ顔の半兵衛、とぼけた顔、何食わぬ顔、 すずしい顔、慰め顔、どこ吹く風人待ち顔、笑顔、笑い顔、にこにこ顔、ほくほく顔、 えびす顔、えんま顔、泣き顔、涙顔、 苦虫を噛み潰したような顔、進まぬ顔、不満顔、恨み顔、浮かぬ顔、心配顔、困惑顔、迷惑顔、臆し顔、あきれ顔、臆病顔
11	信念・努力・忍耐 (2)	顔向け、顔
12	見せる (1)	顔見せ
13	評判 (1)	顔
14	芸術・美術 (2)	似顔（絵）、顔写真
15	保健・衛生 (3)	美颜、顔剃り（道具）、洗顔（顔を洗うこと）
16	交わり (1)	顔見知り
17	集会 (1)	顔合わせ
18	出欠 (1)	顔出し
19	応接・送迎 (3)	顔合わせ、初顔合わせ、拝顔
20	公式・公平 (1)	顔パス
21	興行 (1)	顔見世（狂言の略）
22	色 (2)	顔色（かおいろ）、顔色（がんしょく）
23	草本 (2)	朝顔（便器）、昼顔

24	<u>頭・目鼻・顔</u> (21)	顔、顔面（がんめん）、童顔、幼顔、老顔、丸顔、瓜実顔（うりざねかお）、赤ら顔、紅顔、地顔、素顔、容顔、尊顔、竜顔、天顔、顔立ち、顔形、顔付き、横顔、寝顔、死に顔
計	二十四（項目）	101（用例）

表 4.3.2.1 によると、＜表情・態度＞の項目にある「笑顔」、「笑い顔」、「にこにこ顔」、「ほくほく顔」、「えびす顔」、「泣き顔」、「不満顔」、「恨み顔」、「心配顔」などの造語は、中国語の類語辞典における＜表情・態度・様子＞の＜感情－喜怒哀楽＞（表 4.1.1）に類似している。そして、＜頭・目鼻・顔＞の「尊顔、竜顔、天顔」は、中国語の＜容貌・顔付き＞の＜身分＞「天顔、龍顔」、＜尊称＞「尊顔」（表 4.1.2）に共通している。＜頭・目鼻・顔＞の「顔」は、中国語の＜器官＞の「顔」（表 4.1.6）に似ていることがわかった。

4.3.2.2 「用の類」における「顔による造語」の意味用法

「用の類」において、「顔による造語」の用例数は 39 があり、12 項目に分布する。それぞれの項目における用例は次表 4.3.2.2 のとおりである。

「用の類」における「顔による造語」の各項目の用例数は主に表情・態度（8）、評判（8）と応接・送迎（7）の三項目に集中し、三者で全体の約 58.9% を占めていて、他の項目の用例数は共に 5 以下であることがわかった。用例数順序は表情・態度（8）＝評判（8）＞応接・送迎（7）＞保健・衛生（3）＞往復（2）＞方向・方角（2）＞自信・誇り・恥・反省（2）＞集会（2）＞出欠（2）＞交わり（1）＞待遇（1）＞病気・体調（1）である。

表 4.3.2.2 「用の類」における「顔による造語」の意味用法

No	意味用法	用例
1	往復 (2)	顔を出す、顔を見せる
2	方向・方角 (2)	顔を向ける、顔を突き合わせる
3	表情・態度 (8)	顔に出る、顔に書いてある、顔に出す、 顔色を変える、顔を赤らめる、 顔から火が出る、顔を曇らせる、 顔をしかめる、
4	<u>自信・誇り・恥・反省</u> (2)	顔を立てる、顔に泥を塗る
5	評判 (8)	顔を売る、顔が売れる、顔が立つ、 顔を立てる、顔を汚す、顔がつぶれる、 顔をつぶす、顔に泥を塗る
6	保健・衛生 (3)	顔を作る、顔を直す、洗顔する
7	交わり (1)	顔をつなぐ
8	集会 (2)	顔が揃う、顔を揃える
9	出欠 (2)	顔を出す、顔を見せる
10	<u>応接・送迎</u> (7)	顔を合わせる、拝顔する、尊顔に接する、 尊顔を拝する、顔を貸す、顔を出す、 顔を見せる
11	待遇 (1)	顔を立てる
12	病気・体調 (1)	顔がはれる
計	十二 (項目)	39 (用例)

表 4.3.2.2 にある＜自信・誇り・恥・反省＞の「顔を立てる」は名誉を保てるようにする、「顔に泥を塗る」は面目を失わせる。これらの意味用法は中国語の類語辞典の＜面目・名誉・体面＞の意味用法（表 4.1.4 「無顔」、「赧顔」）に似ている。そして、＜応接・送迎＞の項目（「顔を合わせる」、「拝顔する」など）と中国語の＜会う・

面会＞の項目（表 4.1.10「承顔接辭」）も類似している。

4.3.2.3「相の類」における「顔による造語」の意味用法

「相の類」において、「顔による造語」の用例数は 11 あり、6 項目に分布している。それぞれの項目における用例は、次表 4.3.2.3 が示すとおりである。「相の類」における「顔による造語」の各項目の用例数すべてが 5 以下で、自信・誇り・恥・反省（4）と表情・態度（3）二項目に集中し、二項の合計で全体の 63%以上を占めている。

用例数順序は自信・誇り・恥・反省（4）＞表情・態度（3）＞欲望・期待（1）＞失望（1）＞交わり（1）＞生理・病氣（1）である。

表 4.3.2.3 「相の類」における「顔による造語」の意味用法

No	意味用法	用例
1	表情・態度（3）	顔色（がんしょく）、澄ました顔、涼しい顔
2	自信・誇り・恥・反省（4）	顔色（がんしょく）なし、合わせる顔がない、顔向けができない、顔が合わせられない
3	欲望・期待（1）	浮かぬ顔
4	失望（1）	不景気な顔
5	交わり（1）	顔が広い
6	生理・病氣（1）	顔色のよい
計	六つ（項目）	11（用例）

表 4.3.2.3 にある＜自信・誇り・恥・反省＞の「顔色（がんしょく）なし、合わせる顔がない、顔向けができない、顔が合わせられない」の意味用法は中国語の類語辞典の＜面目・名誉・体面＞の「無顔、無顔見江東父老」（表 4.1.4）の意味用法に似ている。

4.3.2.1～4.3.2.3をまとめると、「体の類」「用の類」「相の類」のすべてで、「顔による造語」の意味用法の大半が「表情・態度」の項目に集中していることがわかった。「顔による造語」の項目数は31にも達するが大半の用例数は5未満で、5以上あるのは「表情・態度」、「評判」、「保健・衛生」、「頭・目鼻・顔」、「応接・送迎」、「自信・誇り・恥・反省」の6つ項目だけである。

4.3.3 「顔による造語」（日本語の類語辞典）の意味用法の多様化

4.3.2の分析によって、『分類語彙表』も中国語の類語辞典と同じように、1つの「顔による造語」（同形語）に2つ以上の意味用法があることがわかった。統計したこの条件に相応しい造語は「顔色（かおいろ）」、「顔色（がんしょく）」、「顔付き」、「顔」、「顔形」、「顔を出す」、「顔を見せる」、「顔を立てる」、「顔に泥を塗る」の計9つである。

「顔色（がんしょく）」は「体の類」の＜表情・態度＞と＜色＞のほかに、「相の類」の＜自信・誇り・恥・反省＞の意味用法でも使われている。「顔色（かおいろ）」は「体の類」の＜表情・態度＞と＜色＞だけでなく、「相の類」の＜生理・病気＞に、「顔付」は「体の類」の＜様相＞、＜表情・態度＞、＜頭・目鼻・顔＞に、「顔」は「体の類」の＜信念・努力・忍耐＞、＜評判＞、＜頭・目鼻・顔＞に、「顔形」は「体の類」の＜形・型・姿・構え＞、＜頭・目鼻・顔＞に、「顔を出す」、「顔を見せる」は共に「用の類」の＜往復＞、＜出欠＞、＜応接・送迎＞に、「顔を立てる」、「顔に泥を塗る」は同時に「用の類」の＜自信・誇り・恥・反省＞、＜評判＞の意味用法で使われている。これらの結果を表4.3.3に示す。

4.3.3 『分類語彙表』における「顔による造語」の多種意味方法

別	類			
	体の類	用の類	相の類	

顔による造語			
1 顔色（がんしょく）	表情・態度		
	色		
			自信・誇り・恥・反省
2 顔色（かおいろ）	表情・態度		
	色		
			生理・病気
3 顔付き	様相		
	表情・態度		
	頭・目鼻・顔		
4 顔	信念・努力・忍耐		
	評判		
	頭・目鼻・顔		
5 顔形	形・型・姿・構え		
	頭・目鼻・顔		
6 顔を出す		往復	
		出欠	
		応接・送迎	
7 顔を見せる		往復	
		出欠	
		応接・送迎	
8 顔を立てる		自信・誇り・恥・反省	
		評判	

9 顔に泥を塗る		自信・誇り・恥・ 反省	
		評判	

4.4 中国語の類語辞典と日本語の類語辞典との比較

類語辞典における「顔による造語」に関する用例数は、中国語の場合は 145 で、日本語の場合は 151 である。二者の間にそれほど差がない。そして、項目数は、中国語は 12 あるが、日本語は 31 あり、二者の間に 2.5 倍の差が見られる。なお、中国語の類語辞典も日本語の類語辞典も用例数が少数の項目に集中していることは共通点がみられる。(中国語のは「表情・態度」、「容貌・顔付き」、「人物の代表」、「面目」4 つに、日本語のは「表情・態度」、「頭・目鼻・顔」、「応接・送迎」、「評判」、「保健・衛生」、「自信・誇り・恥・反省」6 つに集中する。)

4.2 と 4.3 の内容を整理すると、中、日の類語辞典の意味用法にいくつかの類似項目が見られる。例えば、中国語の類語辞典における＜表情・態度・様子＞（表 4.1.1）は日本語の「体の類」の＜表情・態度＞に似ていて、＜容貌・顔付＞（表 4.1.2）の意味用法は、日本語の「体の類」における＜頭・目鼻・顔＞の意味用法に類似している。なお、両者ともに「顔による造語」で＜人物＞（中国語：表 4.1.3、日本語：表 4.3.2.1）が使われていて、中国語の＜面目・名誉・体面＞（表 4.1.4）においての意味用法は、日本語の「用の類」及び「相の類」の＜自信・誇り・恥・反省＞の意味用法との重なりが認められる。また、中国語の＜器官＞（表 4.1.6）、＜面会＞（表 4.1.10）の意味用法は、日本語の「体の類」の＜頭・目鼻・顔＞、「体の類」及び「用の類」の＜応接・送迎＞の意味用法と類似している。表 4.4.1 に示す。

表 4.4.1 中、日の類語辞典に意味用法の類似項目

中国語の類語辞典	日本語の類語辞典		
	体の類	用の類	相の類
「表情・態度・様子」 表 4.1.1 喜怒哀楽 ◆歡顔、愁顔、變顔、、	「表情・態度」 表 4.3.2.1 ◆笑顔、進まぬ顔、ニコニコ顔、心配顔、、		
「容貌・顔付き」 表 4.1.2 ◆身分：天顔・竜顔 ◆尊称：尊顔	「頭・目鼻・顔」 表 4.3.2.1 ◆尊顔・竜顔・天顔		
「人物の代表」 表 4.1.3 ◆紅顔、均顔、朱顔	「人物」 表 4.3.2.1 ◆古顔、初顔、新顔		
「面目・名誉・体面」 表 4.1.4 ◆無顔、無顔見江東父老		「自信・誇り・恥・反省」	
		表 4.3.2.2 ◆顔を立てる、顔に泥を塗る	表 4.3.2.3 ◆合わせる顔がない、顔向けができない
「器官」 表 4.1.6 ◆顔	「頭・目鼻・顔」 表 4.3.2.1 ◆顔		
「面会」 表 4.1.10 ◆承沿接辭	「応接・送迎」		
	表 4.3.2.1 ◆顔合わせ、拝顔	表 4.3.2.2 ◆顔を合わせる、拝顔する	

中国語の類語辞典に、二つの意味用法がある一つの同形語があり、それらは「朱顔」、「顔色」、「紅顔」、「強顔」、「靦顔」という5つの「顔による造語」である。日本語の類語辞典にもこのような意味用法があって、「顔色（かおいろ）」、「顔色（がんしょく）」、「顔付き」、「顔」、「顔形」、「顔を出す」、「顔を見せる」、「顔を立てる」、「顔に泥を塗る」の9つの「顔による造語」である。

中、日両言語の類語辞典に共に記載されている「顔による造語」は「顔」、「顔色」、「紅顔」、「天顔」、「尊顔」、「竜（龍）顔」の計6つである。「顔 yan、かお」は、中国語では＜器官＞の意味用法に属するが、日本語では「体の類」の＜信念・努力・忍耐＞、＜評判＞、＜頭・目鼻・顔＞の意味用法に属し、中国語の＜器官＞の意味用法は日本語の＜頭・目鼻・顔＞のと共通している。また、「顔色 yan se、かおいろ、がんしょく」は、中国語の＜容貌・顔付き＞、＜顔料・色＞、＜手段＞という3つの意味用法に対して、日本語は「体の類」＜表情・態度＞、＜色＞、相の類の＜生理・病気＞の意味用法に属し、＜容貌・顔付き＞の意味用法は＜表情・態度＞のと、＜顔料・色＞のは＜色＞のと類似している。このように、中、日両言語において「顔」と「顔色」には重なりがあることが見られた。「紅顔 hong yan、こうがん」は、中国語では＜人物＞の意味用法で、日本語では＜頭・目鼻・顔＞の意味用法で使われて、二者はともに美人、少年を表す。なお、「天顔」、「尊顔」、「竜（龍）顔」の造語は、中国語では＜容貌・顔付き＞に、日本語では＜頭・目鼻・顔＞の意味用法に属するが、共に天子の顔を表す尊敬表現である。よって、二者には「紅顔」、「天/尊/竜顔」の造語において共通点がある。以上を表4.4.2に示す。

表 4.4.2 中、日両言語類語辞典に共に記載されている「顔による造語」

顔による	中国語の意	日本語の意味用法	共通
------	-------	----------	----

造語	味用法	体の類	用の類	相の類	点
顔	器官	信念・努力・忍耐 評判、 頭・目鼻・顔			○
顔色	容貌・顔付き 顔料・色、 手段	表情・態度 (がんしょく、かお いろ) 色 (かおいろ)		生理・病 気	○ ○
紅顔	人物 (美人・少年)	頭・目鼻・顔 (紅顔、紅顔の美少 年)			○
天顔	容貌・顔付き き	頭・目鼻・顔			○
尊顔					
竜(龍)顔					

5. おわりに

本研究は中国語の辞典 6 種と日本語の辞典 6 種における「顔」の語義と中、日本語の類語辞典における「顔による造語」を研究対象とした。

調査した結果、「顔」の語義について、中国語の辞典は 7 つの項目を、日本語の辞典は 9 つの項目を記載していて、二者には 2 つの項目（＜顔付き・容貌・様子＞、＜名誉・面目＞）が共通している。

類語辞典における「顔による造語」の意味用法の分類項目は、中国語の場合は 12 であり、日本語の場合は 31 で、二者間に 2.5 倍の差異が見られる。それに対して、「顔による造語」の用例数は、中国語の 145 に対し、日本語は 151 で、二者間には類似性があり、あまり差が見られない。なお、用例数について二者ともに少数の項目に

集中している。中国語の類語辞典における＜容貌・顔付＞、＜表情・態度・様子＞の項目は、意味用法について日本語の類語辞典の「体の類」における＜頭・目鼻・顔＞、＜表情・態度＞の項目に類似している。なお、両者には共に＜人物＞の項目がある。また、中国語の＜面目・名誉・体面＞、＜器官＞、＜会う・面会＞の意味用法は日本語の＜自信・誇り・恥・反省＞（相の類）、＜頭・目鼻・顔＞（体の類）、＜応接・送迎＞（体の類、相の類）に対応していることがわかった。

中国語において、1つの「顔による造語」には2つ以上の意味用法が見られ、「朱顔」、「顔色」、「紅顔」、「強顔」、「靦顔」の5つがある。日本語にもこのような用法が見られ「顔色（かおいろ）」、「顔色（がんしょく）」、「顔付き」、「顔」、「顔形」、「顔を出す」、「顔を見せる」、「顔を立てる」、「顔に泥を塗る」の9つの造語がある。中、日両言語に共に記載がある「顔による造語」は6つあり、「顔」、「顔色」、「紅顔」、「天顔」、「尊顔」、「竜（龍）顔」で、意味用法も重なりがみられる。

本調査は中、日両言語の辞典により「顔」の語義と「顔による造語」を分析し比較した。今後引き続いて、中、日両言語のコーパスを利用して、「顔による造語」の共起表現を明らかにしたい。

参考文献：

- 『広辞林』第六版 1986
- 『広辞苑』第六版 2008 岩波書店
- 『日本語大辞典』第二版 2001 小学館
- 『日本語大辞典』第二版 1997 講談社 梅棹忠夫ら
- 『分類語彙表増補改訂版』2004 国立国語研究所 大日本図書
- 『明鏡国語辞典』携帯版 2008 北原保雄 大修館
- 『新明解國語辞典』1983 金田一京助他 三省堂
- 『Goo 辞典』<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/37552/m0u/>
- 『中華民國教育部重編國語辭典修訂本』1994
(<http://dict.revsied.moe.edu.tw>)
- 『中正形音義綜合大字典』2003 正中書局 高樹藩主編
- 『中國語大辭典』1994 大東文化大學中國語大辭典編纂室 角川書局
- 『国民常用標準字典』1989 (修訂本) 高樹藩編纂 正中書局
- 『國語活用辭典』2000 五南圖書出版 何容総主編
- 『新編國語日報辭典』2005 國語日報社 國語日報出版中心主編
- 有蘭智美 2005「身体部位（「手」・「口」）を含む慣用表現の意味分類」『日本認知言語学会論文集』第五卷
- 有蘭智美 2006「分解可能な慣用表現における身体部位詞の意味拡張」『日本認知言語学会論文集』第6巻
- 有蘭智美 2008「「顔」の意味拡張に対する認知的考察」『言葉と文化』V9 国際言語文化研究科 名古屋大学
- 沖本正憲 2009「身体部位詞の比喩的意味拡張と顔の認識」『苫小牧工業高等専門学校紀要』(44),
- 皆島 博 2006「日英語の身体部位語彙：「アタマ」と” head”」『福井大学教育地域科学部紀要Ⅰ』(人文科学 外国語・外国文学編)
- 田中聡子, ケキゼ・タチアナ 2005 「「顔」と＜「лицо」＞—＜顔＞の概念の日露対照研究」『世界の日本語教育』15,
- ラダポーン サイソンプーン 2006「身体部位「顔」の意味拡張：日本語とタイ語の比較」『日本認知言語学会論文集』

- ラダポーシ サイソンプーン 2007「身体部位を表すタイ語の文法
化：「nāa（顔）」を中心に」『日本認知言語学学会論文集』
- 林 八龍 2002『日・韓両国語の慣用的表現の対照研究』明治書院